
つくばみらい市立谷原小学校区における意見交換会

《 平成 29 年 1 月 24 日（火）午後 7 時 00 分～ 谷原小学校図工室 》

1. あいさつ

2. これまでの経緯

3. 『つくばみらい市義務教育施設適正配置基本計画』について

4. 今後の進め方について

《事務局より資料の説明》

5. 質疑・ご意見等

市 民： （仮称）富士見ヶ丘小学校（以下、「富士見ヶ丘小学校」）も含めた中で、それぞれの学区と学校の位置を知りたい。その上で質問したい。

みらい平地区に陽光台小学校と富士見ヶ丘小学校の 2 つの学校を作るのは、ある程度理解できるが、谷原小学校、十和小学校、福岡小学校の 3 校による統合による枠組みの中で何故、谷原小学校に統合されるのか。単純に距離だけで言えば十和小学校に統合となるのではないか。

事 務 局： それぞれの学区と学校の位置関係については、別途お渡しした資料をご覧いただきたい。審議会の中でも色々と議論したが、一番の理由は学校の大きさや、教室数である。資料の P3 の「(参考 1) 谷原小・福岡小・十和小学校区の児童数・学級数の推移（詳細）」の各小学校の概要の下に記載している普通教室数を見て頂くとわかるように、福岡小学校は 7 教室、十和小学校 7 教室、谷原小学校 10 教室となっている。つまり、谷原小学校は、一番多く教室が確保できるということ。また、小中学校一貫教育になる事を想定して、(中学校と隣接した) 谷原小学校に新しい学校を作ろうという事になった。

事 務 局： 補足すると、一つは、児童が入りきらないというキャパシティの問題。学年に 1 クラス、更に特別支援教室を作る場合の事を考えて、教室数の多い学校を選んでいる。

もう一つは小中一貫教育の観点から統合校を考えた。谷原小学校と谷和原中学校は隣接しており、何年かかけてお互いに連携を取りながら子供たちを教育していこうという取り組みをしている。谷原小学校は谷和原中学校との距離が近いので、それも理由の一つである。そして、全体として考えた時には、(陽光台小学校と富士見ヶ丘小学校は別として考えることになるが) 1 つの小学校に対して 1 中学校にしようということも想定している。みらい平地区を除けば、小絹小学校と小絹中学校、谷原小学校と谷和原中学校、板橋小学校と

伊奈東中学校、谷井田小学校と伊奈中学校の関係になり、全体では6小4中を目指すという考えがある。

市 民： 資料1の4Pの一番下の欄にも書かれているが、みらい平で新しい中学校を作る計画が現段階で動いているのか。それとも、計画はないのか。今後の計画情報を教えて頂きたい。

事 務 局： 現段階では、中学校を作るか作らないかの方向性は決まっていけないという状況である。

事 務 局： 今現在は、伊奈中学校と谷和原中学校の選択制になっている。みらい平地区に居住する生徒の9割は谷和原中学校に通っており、今のままの中学校選択制を継続していくと、もう少しで教室数が不足してしまう状況にある。富士見ヶ丘小学校の学区の決定に合わせて、現在、学区審議会において伊奈中学校と谷和原中学校の線引きを検討しているところである。線引きによって学区を分ければある程度、既存の2つの中学校で人数がまかなえることとなる。現時点においては、まずは既存の中学校の枠内で学区を検討することで進めているところである。

市 民： 以前、事務局と個人的に話をさせていただいたが、富士見ヶ丘小学校の学区を検討する学区審議会の場に、谷原小学校の関係者と十和小学校の関係者が入っていないのが疑問に思っている。何故、みらい平地区ばかりを優先しているのか。新しい住民しか見てないと思われても仕方ない。谷原小学校に通っている学区内の子でも、西櫓戸など明らかに富士見ヶ丘小学校の方が近い地区もある。先ほどの話でもあったが、谷和原中学校に9割がたみらい平地区の子ども達が来ている。通学路にある坂を自転車でものすごいスピードで下ってくる。幸い、ボランティアの方が谷原小学校にいて、子ども達が事故にあわないように見ているが、そのボランティアもいつまで続けてくれるのかかわからない。これからもみらい平地区の子ども達が谷和原中学校に通学することになるのだろうが、安全面で非常に不安がある。わざわざ、危険な県道を通らず、安全に通えるところに通わせたほうが良いのではないか。この意見を審議会で地元の意見としてあげたかったが、審議会には条例で20名しか入れないとのことであった。それくらい重要なことだと思っており、学区の決定にあたっては、是非その点を考慮していただけないかと考えている。小学校の通学時に起こる事故も多かったので、通う距離が長ければ長いほど心配になる。特につくばみらい市は県道も含め全体的に道路の安全性が低いことが課題だと思っている。スクールバスも、どのような形で区切られるかはわからないし、永続性にも疑問がある。是非、安全面について十分に考慮しながら検討を行っていただきたいと思う。

事 務 局： 今のお話については、状況が理解できない方もいらっしゃると思うので、これまでの経緯を事務局で補足しながら、その後の対応も含め、ご説明させていただきたいと思う。

先ほどからお話にもあった通り、陽光台小学校及び富士見ヶ丘小学校の学区の線引きに関する検討を行う場として、現在、学区審議会を開催して話し合いを進めているところである。この学区審議会は、学校長などの関係者のほか、陽光台小学校のPTA会長やPTAの

会員の方々、伊奈中学校や谷和原中学校の PTA 会長などで委員が構成されている。先ほどのような話は、学区審議会における会議の場においても意見があり、「みらい平地区内の構成メンバーだけで決める話なのか」「隣接する小学校区も含めてメンバーに入ってもらって決めるべきなのではないか」などの意見は出た経緯がある。しかし、今回は、みらい平地区の学区の線をなんとかしなければならないということから、20 人という会議メンバーの制約の中において、みらい平地区の保護者の方も入れて検討するということを優先した結果であることを踏まえ、ご理解をいただいたところである。しかしながら、既存地区の隣接する小学校区の関係者の方々から頂いたご意見は、学区審議会において委員の方々にご報告をさせて頂いた。また、隣接する十和小学校及び福岡小学校、小張小学校の PTA 会長に対しても、ご意見を伺った上で、ご説明させていただき、ご理解をいただいたところである。

なお、学区審議会においても、みらい平地区から伊奈中学校・谷和原中学校へと通学する際には、安全には配慮していただきたいという意見を頂いているところである。このような意見も踏まえ、明日予定している学区審議会において答申の最終案の審議をするという予定となっているところである。

事務局： 今お話を伺った通学路における不安解消の件については、要望ということで事務局で受けさせていただくということで、よいだろうか。

市民： 今の要望に付け足したい点がある。現段階で、色川接骨院のあたりから古川の手前まで車線を広げる計画が県の方で進んでいると思う。みらい平地区から通う子ども達の利用が非常に多い状況であることから、事故防止に向けて、市からの要望として自転車道を付け加えるようお伝えいただけないだろうか。

事務局： 要望ということで受けさせていただきたい。

市民： 統廃合の計画が平成 35 年度を目途にするのはわかるが、それに伴って学校の規約関係や PTA など、他の学校と統廃合し新しい学校に向けての枠組み作りはいつから話し合いを進めていくのか。新しい子ども達の中での話になると思うが、その点の計画はどうなっているのか。

事務局： 近隣の市町村でも、統廃合が進んでいる状況である。統廃合をする 2 年くらい前から、統廃合小学校区グループ別の意見交換会を行い、その次に、統廃合検討委員会、統合準備委員会と進めていく。(一般的には) PTA で一年くらいかけて話し合っていることが多いと思う。その前年度は、細かい所のすり合わせとして、子ども達の交流を行う。一気に一緒になるのではなく、少しずつ 1 年かけて統廃合する学校とお互いに行ったり来たりしながら、学校を紹介しあう。統廃合により無くなる学校については、これまでの思い出をまとめるようにする等。そういったことをクリアにしながら、スムーズな形でスタートできればいいと思っている。

市 民： 重ね重ね同じようなことを言って申し訳ないが、伊奈中学校は大規模校なので、生徒を大量に確保できる。更に陽光台小学校に通っている大勢の生徒が、谷和原中学校と伊奈中学校に振り分けられるとなると、今度は伊奈中学校の方にも大量の自転車を通ることになると思うが、歩道が整備されていないと思うのでハード面の整備を考慮した方が良いと思う。もちろん、受け入れる学校のキャパは必要だが、そういった面も見て頂きたい。

事 務 局： 並行して安全な通学路の安全対策を進めていきたいと思う。

市 民： ということは、統合の1年前の平成34年から用意をするという事でいいか。

事 務 局： 統廃合というのもすぐに決まるわけではないので、福岡小学校区の人たちの話や、十和小学校区の人たち、また地域の人たちを含め、ある程度了解を得られなければならない。仮に、皆が良いということになり、統合検討委員会の中で、具体的に新しい学校を作っていこうとなるので、その話し合いの中でどうなるかはわからないが、谷原小学校の名前を変えたり、校章や校歌が全て変わっていくことを決めていくことになる。3校合わせて新しい学校を作っていこうということなので、簡単に終わるものではない。

市 民： 逆に、1年で間に合うのかと思う。

事 務 局： 先ほどの話にもあった、PTA のやり方は大きな意味では各学校同じだが、小学校ごとにPTA の会議が違ったり、事業が違ったり、委員会も若干違う。その為、今までの谷原小学校のPTA に、どうやって財産を整理していくのか、新しい学校で無くすのか、または、どう生かすかを我々が音頭を取り、皆に集まってもらい話し合いを進めていこうと思う。

市 民： 時期についてはまだ決まってないという事か。

事 務 局： 冒頭にも話が合ったように、やはり自分の学校が無くなってしまう事が受け入れられない方もいる。その方たちとの話し合いを続けしていきたい。どのくらいかかるかわからないが、スクールバスについて言うと、スクールバスを出すのか出さないのか、どのように出してくれるのか、どのルートを使うのか等。不安材料があると思うので、その不安材料を1つ1つある程度納得をして頂いたうえで、統合に踏み切る形になると思う。推計を見ると児童数が減っていく傾向になると予想されるので、ある程度の人数を確保する方策を考える。本来ならば、住宅団地など建てて人口が減らないようにすることが一番いいことなのかもしれないが、なかなかそれもうまくいかない。我々教育委員会としては、それができるまで待っていると時間がかかってしまうので、今困っている方々を救いたいという一念で、このような計画を立てさせていただいた。皆とともに考えていきたいという事。まだスタートライン。よろしくお願いしたい。

市 民： 廃校する学校の跡地について、計画はあるのか。

事務局： 跡地利用については、一方的に決めるのではなく、地域の皆さんとどのようなものかいいの、声を聞いて話し合っていかなければならない。

事務局： 跡地利用については、他の市町村の例で見ると、統廃合後に、雑草が生え廃墟のようになっているようなところもある。そのため、やはり閉校と同時に、はやく新しい形でスタートできたらいいと思う。幸いにも、全ての学校の大規模改修は終わり、空調もついている。そう考えると更地にするのは勿体ない。是非、地域の中心の場所として考えていきたい。市でも検討委員会を立ち上げてこれから進んでいきたいと思っている。

市民： 統合した場合、全生徒数は何人になるか。

事務局： 1学年2クラスとなるのは難しいと思うが、資料2 2Pにあるように、1クラス20人、30人いれば、今とは大分違った活動ができる。今後、どのくらい住みつくのかなど予想がつきにくい。富士見ヶ丘小学校の周辺のことについても、学校のすぐ裏なのにもかかわらず学区の関係で遠い学校に通わなくてはならないとなると変な話になってくるので、隣接地区については、学区審議会の話し合いの中で、進めていこうと思っている。

市民： 例えば学区外申請を出せば、学校に入れてもらえるような話があったが、そもそも学校が家の真裏にあるのに学区外申請を出すのはおかしいという地元の方の意見もある。

事務局： その辺も含め、考えていきたいと思う。

市民： 今、陽光台小学校がマンモス校になっているが、学校格差について何か考えているか。例えば、陸上競技会だといつも陽光台小学校が優勝している。これでは、子ども達はひとつもおもしろくないのではないだろうか。子ども達の努力次第と言われればそうかもしれないが、なるべく格差も解消の方向に向かってもらえればいいなと思う。みらい平に人が集中しているのは事実なので、難しいこととは思いますが、そういうことも起こり得るという事。

事務局： 去年、一昨年になるが福岡小学校で意見交換会有り、保護者が自分の子はドッチボール大会に出たかったが人数が足りない学校の為、やむなく断念したという話があり、ある程度人数がいればチームが出来て参加できたのに、そんな子ども達を見ていてかわいそうだと言っていた。このように、人数が少ないことで出来ないという事が起きている。本当は、どの学校も均等に200～300人ずついて、2クラスあるのが理想だが、陽光台小学校にしても富士見ヶ丘小学校にしても700～800人になると思う。去年と今年では人口推計も年々変わっている状況。陽光台小学校は、人口推計から、来年に児童数が1,000人になる予想だったが、しかし、結果としては一年前倒しで1,050人に増えてしまった。これでは、陽光台小学校のキャパが足らなくなってしまうということで、今現在、改築しているところ。今後、福岡小学校も工業団地の計画があったり、また、昨日、東櫛戸台線が開通して

明るい雰囲気になってきているが、それが人口増にいかに関与し既存地区の状況に影響するか見ているところである。我々としては、今まで通り学校を存続させたい気持ちがある。

児童数が少なくて出来ない事や授業があつたりする。また、男女の比率の問題や先生の担当人数に問題があり 6 クラスに対し 6 人の先生しかいないので、専門の先生も揃いにくい。このような、色々なデメリットがある中で、ある程度きちんとした形を取るには、人数が必要という事になる。全国的にも、茨城県内でも、ここ 10 年で学校は減っている。我々の地域も始まったばかりだが、強制的ではなく、皆でスタートラインに立って将来をどうするか考えていきたい。周りの小学校の事も思いあつて頂ければと思う。

市 民： 折角、統合する形になるので魅力ある学校にして頂ければと思う。

事 務 局： それぞれに伝統があつてそれを継承したりしている。新しい学校でも地域に根差した伝統やいいところを持ち寄って継承、伝承していければと思う。一番の心配は子ども達。学校が無くなる上、学校名も変わり、新しい学校ではどんな子たちがいるのかなど。色々な交流活動を行っていきたいと思っている。

事 務 局： 色々な学校で「小さくても大きな学校に負けないぞ」ということを言っている。この学校もそう。皆、工夫や努力でカバーしながら頑張っている。私自身の一番の大きな仕事は、小さい学校に先生を揃えること。音楽会があるときに音楽の先生がいなくなると非常に困る。市内には全ての学校に多くの専門の先生を揃えている。私の知る限りでは、近隣の市の学校で専門の先生が揃っているというのではないと思う。子ども達や先生が一生懸命頑張っているので、子ども達は何の不足もない。だからこそ、学校を残してほしいと言っている。陸上大会では、それはそれは大変な思いでやっていると思う。

市 民： 谷原小学校はすごく優秀と思う。良い先生方が来てくれてありがたいと言いたい。

事 務 局： ありがとうございます。

事 務 局： お子さんの不安もそうなのですが、保護者の皆さんも現状について色々な不安があると思う。市の教育委員会としても東小学校や板橋小学校の統合は、皆さんに示している通り平成 31 年を目標にこれから、話し合いを進めていくところ。やっていることの情報公開をインターネットや広報誌を通して知らせる不安を解消できるようにしていく予定。検討委員会でどういう話し合いがされたかという点についても、情報をお知らせしていくようにしていきますので、よろしくお願いいたします。

4. 閉会

事 務 局： 本日は貴重な意見を頂きましてありがとうございます。以上をもちまして、閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

以上